
医学フォーラム

<学生派遣事業報告>

ハワイ大学での臨床推論ワークショップ

京都府立医科大学医学部医学科 第6学年 畑 幸一

今回、2015年3月8日から13日までの6日間、社団法人野口医学研究所の奨学金制度を通して、ハワイ大学の医学部 John. A. Burns School of Medicine の Clinical reasoning workshop に参加させていただきました。参加者は私を含め24人で、内22人が日本人、残り2人が韓国人でした。その内、野口医学研究所の奨学金制度利用者は私を含め3名のみで、他はみな各所属大学がハワイ大学と提携しており、その留学制度による参加者でした。学年は3年生から5年生までいました。野口医学研究所の奨学金制度に関しては、インターネットで留学制度を探している時に偶然発見し、応募しました。面接は東京で行われ、一日のうちに数回あり、それぞれ日本語による他者紹介、英語による症例発表と自己紹介でした。しっかり準備しておくことが必要ですが、いずれも必須の能力であり、留学した際にとても役に立ちました。今回の留学は短い期間でしたが、その後の学び方や考え方を考える、とても良い経験ができたので、その報告をさせていただきます。これから留学を考えている人たちの一助になれば、と思います。

まず、私がワークショップに参加しようと考えた理由は3つありました。1つ目は、アメリカの医学教育を体験したいというものです。その体験を通して、自分の力を伸ばすと同時に自分の持つ医学学習の方法を増やしたいと考えました。2つ目は、アメリカの医療を見たいというものです。世界の医療制度と実践をこの目で見ることで、日本の医療を客観的に見つめ、長短を捉えられるようになりたいと考えました。3つ目は、ハワイの文化を見てみたいという単純

な好奇心でした。

ワークショップの内容は、大きく分けて講義形式と実践形式でした。講義形式では、問診、身体診察、症例報告、禁煙指導、bad news の伝え方を学びました。実践形式では、シミュレーション機器を用いた ACLS、気管支鏡、腹腔鏡の練習と模擬患者による医療面接の練習、そして、triple jump と呼ばれる Problembased learning (PBL) 形式の臨床推論の学習を行いました。講義形式と実践形式は、カリキュラムの中にバランスよく配分されていました。学んだ知識を実践の中で引き出し、自分ができるようになったことや、まだわかっていないことが明らかになりやすく、実践力を鍛える良い方法だと感じました。

講義形式はただ一方的に講師が話すだけでなく、学生に意見を求めたり、ペアになってロールプレイをさせたりしながら進められたので、学びやすかったです。学ぶ内容自体は、どれも基本的なもので、日本で学ぶものとそれほど違いはありませんでしたが、日本での授業と違い、知識を学ぶことと使うことがつながりやすく、医師になるための実践力を高めるのに適していると思いました。例えば、症例報告の仕方の講義があった後、医師役と患者役に分かれ、問診していきながら症例報告を作り、それを発表するというロールプレイがありました。実際に問診していくと、症例報告のために必要な情報をいかに聞きだすのか、医学情報を意識して聞き出しながらもいかに患者さんに配慮するのか、そして聞き出した後は情報をいかに整理し症例報告用にまとめていくのか、など様々な疑

問が生じました。学んだばかりの知識を引き出しながら、こうした疑問を解決しようと試みる中でさらに理解が深まり、同時に知識を活かす楽しさを感じることができました。

実践形式で学んだもので特によかったのは、ACLS、医療面接、triple jumpでした。ACLSは、グループで救急患者（マネキン）のファーストタッチから治療まで責任を持って行うもので、問診、身体診察、検査、治療という一連の全ての知識が必要とされました。そのようなロールプレイをあまり経験していない私は思うように対応できませんでしたが、患者さんを助けるために知識を使い状況に対応する、このようなトレーニングは非常に挑戦し甲斐があり、楽しいものに思いました。この授業を通して、知識を単に記憶として学ぶだけでなく、技術へとアウトプットできる形で学んでいくことが必要なのだということを、悔しさと共に実感することができました。

模擬患者による医療面接は、日本で4年次に受けたOSCEの医療面接に身体診察を加えたもので、それを英語で行うのでさらに負荷がかかり、なかなかやりがいのある体験でした。希望者はビデオで撮影し、みんなの前で批評していただけるということだったので、せっかくの機会を生かし、撮影してもらうことにしました。撮影後は全員の前でビデオを流して、よかった点と改善点をコメントしてもらえました。それにより、貴重なフィードバックも得られ、記憶にも焼き付き、また何とはなしに自信もつき、

志願して本当に良かったと思いました。ビデオを通して客観的な自分の姿や英語を見ると、思っていた自分とは異なり、とても新鮮でもあり、恥ずかしくもありました。

triple jumpは、順番に計3つの症例を与えられ、グループで問診、身体所見、検査所見を明らかにしながら、鑑別を行っていくというものでした。問診、身体診察、検査が一連となつて、鑑別が絞られていくことを実感でき、またグループで意見を出し合うことで仲間を意識することもでき、非常に楽しく勉強になる時間でした。

今回の実習の思いがけない収穫は、実習を通して知りあった友人たちでした。みな非常に楽しく、いい人柄の持ち主で、勉強で刺激を受けるだけでなく、空いた時間に一緒に様々な活動をし、親交を深めることができました。特に、ルームシェアをした3人とは、短期間にもかかわらず長く住んだ寮の仲間のように親しくなることができました。また、ハワイは屈指のリゾートでもあり、ビーチ、レストラン、ショッピング、など見所もたくさんありました。

今回の実習を通して、目的であったアメリカの医学教育を見ることと異なる文化に触れることができました。そして、本来の目的にはありませんでしたが、良き先生方に出会い、良き友に出会い、親睦を深めることができました。それは、私にとって何より価値あるものの一つでした。この経験を糧に、これからも世界の医療を学び、日本でよい医療を行える医師になるた



修了書授与式で先生方と



他大学の良き友人たちと



John. A. Burnsschoolofmedicine 校舎前で記念撮影

めに頑張っていきたいと思います。
最後に、これから留学を考えている、あるいは興味はあるけど少し不安だという後輩の皆さんにお伝えしたいことを綴ります。私は、皆さんには不安に戸惑いながらも、どんどん留学して欲しいと思います。もちろん、留学には、資金や語学、そして旅行の危険など大変なことも伴います。私自身もこれまでの留学を通して、色々な大変さを味わってきました。ただ、不思議と、そうした困難は乗り越えた自分の自信になったり、笑い話のネタになったりして、現在の私の力になってくれています。そうしたハードルも楽しみながら留学し、たとえ一部でも日本の外の世界に触れることで、自分自身の世界が変わります。自分が見ることができる世界、認識できる世界が広がります。自分、そして日本を改めて違う視点で見つめることができるよ

うになります。それは、とても楽しく、心躍る体験です。異質な文化、異質な言語、異質な人々に生身を持って触れることで、その土地の光、匂い、音、大地に触れることで、世界の多様性、そして同時に普遍性に気づくことと思います。これから社会に出て、未来を作っていく後輩の皆さんに、世界に出てもっともっと視野を広めてもらいたいと思います。その経験は必ず皆さんの力になってくれるし、広い視野を持ち、優れた能力を持った皆さんが活躍してくれる未来の世界は、もっといい世界になり、もっと多くの人たちが幸せに暮らせる世界になるものと私は信じています。是非、留学に伴うハードルも楽しみながら、どんどん世界に出てみてください。私自身、これからも世界に出る機会を活かしながら、国内はもちろん世界でもしっかりと学んでいきたいと思っています。